

「近代化産業遺産群 続 33」に認定された主な設備

<沼上発電所>



明治 15 年に竣工した^{あさかそすい}安積疏水の沼上滝の落差を利用し、郡山絹糸紡績会社によって明治 32 年 6 月に運転開始された。当時は、出力 300kW、電圧 1 万 1 千 V で 22km あまり離れた現在の郡山市に送電し、郡山市の産業発展の原動力となった。当社で 3 番目に古い水力発電所で、平成 11 年 6 月に百周年を迎えた。なお、現在の発電所建屋は昭和 61 年に建替えている。

<切立橋>



大正 10 年、「東京電灯株式会社（現在の東京電力株式会社）猪苗代第四発電所」の建設時に資材輸送用軌道を布設した際に架橋された。明治 23 年にドイツのハーコート社で製作され、九州鉄道（現在の J R 九州）で利用されていたものが、架け替えに伴い転用された。当初は、猪苗代第四発電所の建設に必要な資材運搬用の鉄道橋梁として使われていたが、現在では一般道の橋梁として利用されている。

<電気コタツ>



三菱電機製で、昭和初期に使用された。対流形で、発熱体からの放熱がまわりの空気を暖め、やぐら内部の空気を対流させながら温度を上げる。

<電気トースター>



FITZGERALD MFG 社製の、米国からの輸入品で、昭和初期に使用された。リバーシブルタイプで両面が焼けるように工夫されている。